

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000553		
法人名	(株) ハンループ		
事業所名	グループホーム なごみ(2階すずらんユニット)		
所在地	北見市無加川町413番地10		
自己評価作成日	令和2年10月16日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「その人らしく最後まで穏やかに生活を送る」をスタッフ全員の意識統一のもとケアを行っている。  
 ・事業所理念を職員全員が理解したうえで会議を行い検討し、チーム目標を立てている。その目標に沿ったケアやケアプランに沿ったケアができるように職員一同が必要な情報を共有し、それを実践している。また、ホーム会議・必要時に開催される担当者会議で評価をしている。  
 ・年に2回のうち、春の火災避難訓練は地域住民の協力を得て、地域住民と共に実践的な火災避難訓練を行っており、秋の職員の訓練には防災を兼ねた避難訓練を実施している。  
 ・身体拘束・虐待事故防止対策委員会・広報委員会・ホーム内感染予防対策環境美化推進委員会各々が定期的に会議・勉強会を開き、ケアに繋げ実践している。また虐待が見過ごされないように各ユニットの管理者・リーダーを中心とし職員同士でも観察しあいながら虐待防止に努めている。  
 ・事業所内外の研修会・勉強会に参加し、ケアの向上に繋げている。  
 ・入社時には新人教育(認知症の理解)その後の勉強会を行い、その都度スキルアップに繋げられるよう、何ができて、何ができていないかを本人に理解してもらい、その後のスキルアップに繋げている。  
 ・契約時に看取りの指針と終末期ケアに関する意向確認書の説明をし、同意を得て意向確認書でご本人様・ご家族様がホームか病院を希望しているかを把握している。また意向の再確認も必要時行い、ご本人様・ご家族様の意向に沿った終末期ケアの対応に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175000553-00&amp;Se">http://mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175000553-00&amp;Se</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時にスタッフ全員で作り上げた理念をいつでもスタッフが見る事の出来るフロアに提示し、職員が意識をし、個人目標を立て実施している。またニューユニット目標ごとを立て実施に取り組み目標に対して評価を行い、サービスに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し花見や清掃、草刈、廃品回収、盆踊り大会、新年会・総会等に事業所として参加している。また年に一回の地域の関係者と近隣住民とで火災避難訓練を行い、交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学の時に在宅で介護している家族への相談に応じたり、運営推進会議において認知症の理解や支援の方法や火災訓練時に搬送の仕方など技術的講習を行なっている。また中学生の体験授業を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、利用者様、御家族様、町内会、地域の民生委員、地域包括支援センターを含む介護に携わる方々の参加を求め、また警察、消防の方々にも必要時参加して頂き、意見、助言を参考にしてサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営、困難事例やサービス向上に向けてのアドバイスを受け、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯防犯の為に施錠しているだけで基本いつでも自由に入出入りが出来る状態で、一緒に散歩や外出に対応したり、身体拘束、虐待防止対策委員会を通して定例の会議や勉強会を行い、身体拘束の理解を職員全員で周知し実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止対策委員会が中心となり、研修会の参加、勉強会を行い、いかなる場合でも虐待が行われていないか定期会議で検証を行い、虐待のないケアを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	内、外の研修会に参加し、助言や相談が受けられるよう研鑽し必要な方への支援に繋げていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り、入居者様、御家族様が納得されるように説明をし、理解を得ている。また御家族様、利用者様の不安、疑問も安心出来る様に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時や必要時にいつでも要望や意見を聞いたり、運営推進会議で出た意見や、入居者様の意見を反映できるようにしている。また玄関に意見箱を設置して対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は1階、2階の合同会議、勉強会、個人面談、またいつでも意見や提案を聞く機会を設けて、職員の思いやりや意見の反映をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員個々の努力や実績、業務状況の把握をし、各自が向上心を持って働けるよう努めている。またケアの実施と資格の取得によって昇給を図りやりがいに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人教育、内部研修を行い、その後のスキルアップに繋げている。また希望時や必要時に研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して同業者との交流を行い、職員同士が情報交換や共に勉強し意識を高める事が出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、観察を充分に行い、可能な限り対応している。気軽に相談して頂ける様、毎日のコミュニケーション・レクリエーションを通し、何気ない所からのアセスメントを記録し信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の思いやりや意見、事情、要望等を伺い可能な限り実施している。また連携を図り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・御家族様がまず何を必要としているか情報を共有し利用者様の状態を把握した上で優先順位を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの残存機能を把握し、共に作業するなどし、支え合う関係を築いている。また研修会・勉強会で習得したものを実施している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が来所された時は、利用者様の状態を説明・相談したり、敬老会やホームの行事に招待をし御家族様と共に、ご本人様を支え合う関係になれるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来所された時は、共にゆっくりと過ごせる環境を整え、落ち着ける時間を提供している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を考え、その時の状態、状況を考慮し食卓の配置替えをしている。日常生活でも利用者様同士で話がしやすい場所の提供、スタッフが間に入り会話の受け渡しを行なっている。また訴えの無い利用者様にも積極的にアプローチを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても御家族様からの相談に応じ、今まで関係を断ち切らないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や作業を共にし、ご本人様の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、御家族様から生活歴を聞き、シートに落とし、その人らしい生活を出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの一日にあった出来事を詳しく記録し、スタッフ同士で情報を共有し、継続的に状態を把握し、支援するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族様とお話する時間を設け、希望など相談し作成している。また関係者様とも必要時に話し合い介護計画に反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの記録を具体的に残し、ケアの実施、介護計画に活かし、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族様の状況に応じ病院受診の付き添い等、要望に応じ柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の体験授業、地域、町内で行われている催し物の参加等、一人ひとりの能力を発揮できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様それぞれの希望する医療機関での受診を行い、受診の際は受診用紙に詳細に記入し、かかりつけ医と情報共有し適切な対応を行っている。緊急時は往診体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護に対して情報を詳しく伝え、相談、助言を受け適時受診するなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は日々の状態を報告し、その人らしく生活出来る様にしている。退院時には情報を密に回り、連携しケアを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、御家族様と話し合いの場を設け、意向の確認を行い、その結果を元に利用者様にとってどのようなケアが必要かを検討し実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時のマニュアルを作成し、スタッフに周知出来る様にしている。また救命講習会にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回行なっている火災避難訓練や防災机上訓練を行い、災害時の対応の確認を行なっている。町内の方々にも参加して頂き、協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとりが利用者様の生活の場で働いているという意識を持ち、尊厳、プライバシーに配慮した声かけや対応を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が想いを表出したり、自己決定しやすいように、日々のコミュニケーションを密に回り、信頼関係を築けるよう心がけ、声かけや雰囲気づくりを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、御家族様、スタッフで情報を共有し、その人らしい暮らしを考え、常に意識、検討しケアを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりの希望に沿ったおしゃれを楽しんで頂ける様支援しており、散髪は定期的に美容室に訪問してもらい、利用を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好に合わせ、苦手な食べ物であれば、別の物を提供させていただいている。また利用者様の意見を聞き献立をたてたり、一緒に準備や食事している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を把握し記録に残しており、充分確保できているか評価を行い、個人個人に応じた支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。就寝時は義歯を外して頂き、洗浄剤につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に対応しており、尿意を訴えれない利用者様の様子、サインを読み取り、失敗し自尊心を傷つけないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量を確認し、毎朝牛乳の提供を行い、利用者様一人ひとりの身体状況に合わせた対応を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調、気分を考慮し入浴支援を行なっている。希望があればその都度対応させて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣に合わせて休息し安眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の元、確実に内服出来るよう支援している。処方の変更があった場合はスタッフ全員が周知できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の身体状況に合わせ、個々に役割を持って頂いている。ゲームや外出などを楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調、天気に合わせて散歩に行ったり、季節の移り変わりを感じて頂けるよう支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理が可能であれば、御家族様と相談、了承の上管理して頂いている。外出時などでご本人にお支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、いつでも家族や友人などに電話できるよう支援している。また手紙などの代筆も行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を感じて頂ける様に手作りの飾りや各月の行事の写真を見れるよう共有空間に飾り付けをしている。また温度計、湿度計を設置し利用者様が不快な想いをされないよう注意し対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで休んで頂いたり、会話を楽しんで頂ける様、利用者様同士の席位置を調整したりし、環境作りを行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている物を使う大切さを理解して頂き、入居する際に持参して頂いている。またご本人の写真やホームで作成したカレンダー、誕生日カードなどを壁に飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所には見やすい案内板を作り、利用者様自ら判断し行動できるようにしている。トイレなど利用者様に合わせ手すりを増設し、使いやすく、安心、安全で自立した生活が出来る様に支援している。		